

はばたけ

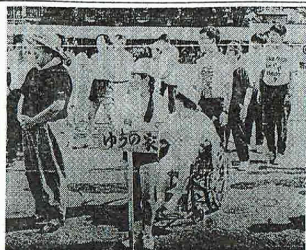
No. 32

栃木陸軍省の自立を促す会
発行責任者 中山全央
編集責任者 原藤頼担当
発行日 1985. 1. 20

私達は
陸軍省が地城の人心と共に
いざいざと生活していき
「はばたけ」をすすめてい
ます。

95年
飛躍の
年に!

村づくり構想を
発展させよう



会員の皆様、新年あけましておめで
とございます。皆様には健やかな新
年が迎えられましたでしょうか。か
さて、私たちの活動は、障害者の社
会参加を目指して間もなく十年にな
うとしていきます。いま考えてみれば、
今日までに大きな取り組みがありま
した。柳橋の事務所店舗の開設、栃木市
に授産施設等をつくる署名活動、そし
て作業所「ゆうの家」の開設です。
これも会員一人一人のご援助の賜と痛
感しています。中でも昨年開所した作
業所には、会員のご息が全所入所す
きたことは会長といたしましても安堵
しております。

「ご存じの通り本会の目標は、障害者
にとつて住みやすい地域づくり村づ
くりです。本年はその目標に向かつて作
業所「ゆうの家」を中心に、また地域交
流、栃木市作業所協議会を中心にした
作業所間の交流、障害児者、親の会協
議会を中心とした映画会の取り組み、
市民へのアピールなど計画が山積みし
ていきます。中でも、作業所の運営成功
は自立の会の目標到達のための試金石
です。とくに専従職員の高齢こそが村
づくり構想を大々飛躍させると思
います。ぜひ、自立の会会員の絶大なる
ご支援を願ひ、新年の抱負といたしま
す。

中山 全央

今後の日程

95年				作業所・仕事はじめ
1月	5日			役員会 (福祉シヨブ)
	7日	PM 7:30 ~		妙唱寺・大黒天 パザー
	14日	AM10:00 ~		(手打ちそば・うどん)
		~15日		
2月	4日	PM 7:30 ~		役員会 (福祉シヨブ)
	5日	AM10:00 ~		新年会 (大町公民館)
3月	4日	PM 7:30 ~		役員会 (福祉シヨブ)

* なお、春には『ゆうの家』の開所1周年記念パーティーを開催
する予定です。(共同作業所「ゆうの家」にて予定)

協力ありがとうございました。

(順不同・敬称略)

田中	タツ子	相川	礼子	皆川	隆	塩浜	清	加藤	悦子
小倉	信治	堀川	和子	早川	ルリ子	五十嵐	み	大類	洋子
三瓶	紀之	大塚	洋子	玉野	京子	須藤	雪枝	大星	野和
入野	純子	岡川	俊子	山本	英子	斉藤	泰子	西田	登美子
鈴木	節子	孤塚	利夫	山下	雅裕	知久	邦子	近藤	登美子
池崎	一彦	郡司	志げ子	金坂	雅子	和美	邦子	福松	登美子
栃木郵便局		あすなろ学園		栃木養護学校		野沢養護学校		福松	登美子
蔵の街音楽祭実行委員会								妙	唱

編集後記

新年あけましておめでとございま
す。前号(No.31)から五カ月も経つて
しまいました。ようやく最新号が完
成しました。また、なかなか発行出来
なかつたため、「はばたけ」による行
事等の連絡が出来る、たくさんの方に
ご迷惑をお掛けしてしまつたことを深
くお詫びします。五カ月もの期間をか
けたからと言ふ訳ではありませんが、
今号は非常にたくさんの方が原稿を
書いて下さつたのでかなり読み応えのあ
るものに仕上がつたと思います。
そして最初、原稿を依頼するに多少
の(かなりの)躊躇があつた筆者さ
んが、いざお願いしてみると皆さん
快くOKしてくれたのには大変感激し
たのと同時に、感謝しております。
今後みなさんに原稿を依頼すること
があるかと思ひますが、その時はど
ぞ宜しくお願ひします。また、この場
をお借りして、次号(No.33)を連べつ
とも四月までには(甘い?)発行するこ
とを誓ひます。

原藤頼担当 斎藤 正治
「ゆうの家」指導員 (33才)

石川絹子さん（非常勤職員）

いつも元気で暗い顔を見せたことなど一度もありません。また、色々なことを知っています。意外とバワーもあります。

私は非常勤職員で、母・主婦をやりながら週二・三回「ゆうの家」の仲間と仕事をしています。ことばの少ない仲間も「〇ちゃん」「ハイイ」と呼びかけたり、内緒話（実は何も話していない）を持ちかけたり、単純な言葉のやりとりの中にも仲間同志のひびき合いを感じます。また時には、

若い非常勤職員を仲間がはじめているかの様にさえ見える（二）やりとりを見ながら思わず笑ってしまう私です。

新井升梢悦子さん（非常勤職員）

一見、真面目そうな新井さんですが、いつもユーモアに溢れているが、いつも面白いことを言っています。「ゆうの家」の仲間みんな笑っています。

はじめまして。非常勤の新井です。「やりたい事はやってみたら」「迷惑



をかけるから辞めた方がいい」の声を背に「ゆうの家」に飛び込んで十九月が過ぎようとしています。

作業所について何の知識もない上に約十年間福祉の現場からも離れ頭の中も固くなっていた私にとって、仲間の若い力・職員の行動力・保護者の包容力は励みになり、今では「明日があるじゃない。明日こそは」の気持ちで取り組んでいます。そして、当たり前のこと、普通のこと、このことがとてつと大きな意味を持っていることを「ゆうの家」で改めて感じています。

自立の会の七年間の活動に込められた思いを大切にしながら、前向きに楽しく、仲間たちと共ににはたき続けたいと思います。そして、賛否両論だった私の家族も、今では「ゆうの家」を理解し応援してくれるようになりました。このように、お隣さんからお隣さんへと自然に「障害者の自立」が伝わっていくことを願っています。



渡辺圭子さん（ボランティア）
ヤマハ音楽教室の先生で、ピアノの腕はもちろんのこと毎回趣向を凝らした歌遊びやゲームを用意して下さり、そのアイデアの豊富には驚かされます。

毎週水曜日、栃木文化会館での音楽活動のお手伝いをしていく渡辺です。普段はちびっ子達にピアノを教えています。初め、どのように展開していったのか不安もありました。「楽しんでくれているのかな？」と心配になった時もありました。でも、仲間たちの元氣な歌声を聴くと、また頑張るぞ」と力がモリモリ湧いてきます。これからも音楽を歌ったり聴いたり、

時には踊ったりして、やさしい気持ちにそして楽しい気持ちになれる、そんな時間を持てたらいいなと思っています。

福田浩木子さん（ボランティア）

福田さんについて「ゆうの家」の誰でも思い出してしまうのは、やはり畑の草むしりでしょう。そのとてつもない速さは「神技」としてあがめられたのです。

私は毎週水曜と木曜の午前中、「ゆうの家」の仲間と一緒に過ごさせていただいています。



我が家は、主人（お父）と私（お母）娘三人・なつみ（小4）ちひろ（小2）次あり（4才）の五人家族です。次女のちひろはダウン症で、第二小の特殊学級に入っています。合併症として心室中隔欠損症がありました。生後十一月と五歳の時の二回の手術で完治しました。最近はやつと唇の色も良くなりました。ちひろの将来も良くなるように。ちひろの将来は、ちひろの唇の色が良くなったからです。心も「愛らしい口」になったのです。と心臓の手術が成功するまでは、ただただ「元気が生きてほしい」それだけが願ひでした。

ところで私は、水曜日の畑仕事を楽しみにしています。今年の猛暑は畑にもありますが、それはそれで気持ちがいいです。最近めつくり汗をびつしよりかいて運動や仕事をすることがなくなってしまうので。

（笑員へ）